

## 雄渾

やって来た・・・

鋭い頂<sup>ちよう</sup>にかすかに座る

見上げる塔はますます屹立して難しい

仁王<sup>な・ん</sup>の何と高い、怒りではない

あらゆる仏像にますます力みなぎり

地底を揺すぶる、その筋<sup>きん</sup>のわななき

蔵<sup>うち</sup>の中なる碧い器は自ら角<sup>かど</sup>を輝かし

目を切る、その剣のおぞましき叫び

私はたまらず、両手で目を覆う

突き抜ける天に上る痛さに

その時

梵鐘の響きが、次元を超えて

割れた

そっと手を放したら

確かに自分の今、在ることが

確かに地面から伝わってきた

(1982.2.11)